

## 第3学年 社会科学習指導案（歴史的分野）

日時：平成28年6月17日（金） 第5校時

授業者：五十川 久芳

### 1 単元名「第二次世界大戦と日本」

#### 2 単元について

第一次世界大戦後、ベルサイユ条約の調印や国際連盟誕生によって世界は国際協調の時代になっていった。しかし、1929年の世界恐慌をきっかけに各国の経済状況が悪化していった。各国は、様々な政策によってこの不景気を乗り越えようとしていった。第一次世界大戦で敗戦国となり、ベルサイユ条約による負担が大きかったドイツは、ヒトラーによって独裁政治を行い、経済回復のために軍需産業によって失業者をなくし、ヨーロッパでの勢力拡大を目指していった。その一方で、ユダヤ人迫害といった惨禍ももたらした。結局、ドイツの勢力拡大が第二次世界大戦を起こすきっかけになった。

日本では、世界恐慌を乗り越えるために軍事縮小と国際協調を目指す政府と植民地拡大を目指す軍部の対立が深まり、五・一五事件や二・二六事件が起こっていった。そして次第に軍部の政治発言権が強まっていった。軍部の政治発言権が強くなった日本は、ファシズム諸国との関係を深め、植民地拡大へと進んでいった。中国での植民地拡大を進める日本は、やがてアメリカとの戦争（太平洋戦争）に突入していくのである。

本単元では、山本五十六を扱う。日露戦争の日本海海戦に参戦した山本五十六は、その後大艦巨砲主義を掲げる海軍でエリートとして本流を駆け上がる。しかし、アメリカの現地視察でその圧倒的な国力を目のあたりにした山本五十六は、対米戦争は日本を破滅させる暴挙であると確信する。日本は日中戦争が泥沼化し、戦線を南部に広げつつあった。フィリピンに勢力を広げているアメリカにとって日本の戦線拡大は脅威であった。日本はドイツ、イタリアと三国同盟を結び、アメリカと対戦する方向へ進み始めようとしていた。山本五十六は、三国同盟を結べば、アメリカとの戦争は避けられないものとなり、多くの資源をアメリカからの輸入に頼っている日本はアメリカからの資源供給が打ち切れ、国力差のある日本に勝ち目はないと考え、三国同盟締結に反対し、軍事強行派に命を狙われながらも対米戦回避を訴え続けた。しかし、三国同盟が締結され、時代は日米開戦へ。皮肉にもその作戦の立案、指揮を担うことになったのが連合艦隊率いる山本五十六だった。司令長官を辞するか、それとも軍人として職務を全うするか。葛藤の末、山本五十六は司令長官としての日本を守る決意を固める。しかし大国アメリカを相手にどのように戦えば多大な犠牲を回避できるか。模索を繰り返す山本五十六はついに一つの作戦を生み出した。それは航空部隊でアメリカの軍事拠点の真珠湾を撃破するというものであった。巨大艦船の戦いが主流だった当時、航空機による攻撃など前代未聞。しかし、山本五十六は、初戦で敵に大打撃を与え、戦争を早期に終息させることに日本が生き残る一縷の希望を見出し、山本五十六は、真珠湾攻撃の作戦にすべてをかけていく。ただ、山本五十六は真珠湾攻撃直前までアメリカとの戦争回避はあきらめではおらず、日米交渉がまとまれば、すぐに作戦を中止して日米開戦を避ける手はずを整えていた。しかし、アメリカとの戦争は避けられず、太平洋戦争に突入していくことになる。そして、多くの尊い命が失われる結果となってしまふ。

世界中を巻き込む戦争になったきっかけは世界競争を乗り越えるための植民地獲得競争である。しかし、その結果、多大な惨禍をもたらしている。戦後70年を過ぎその惨禍が忘れ去られようとしている。自分の国のために武力によって支配していく行為は、多くの命を失う結果となる。日本も、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えた。二度と同じことを繰り返さないためにも、その事実をしっかりと見つめていってほしいものである。本単元では、その当時の人々の思いを感じ取る授業を多く取り入れることで、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気づかせていきたい。

### 3 研究に関わって

#### 研究主題

## 自ら学び続ける生徒の育成

#### (1)社会科の授業に対する意識の実態をもとにした授業の工夫

Q 社会科の授業は楽しいですか。			
楽しい	やや楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
12人	15人	6人	0人

- ・班交流で意見を言って、相手の意見を聞くとき。
- ・班や全体で意見交流するとき。
- ・班の子の意見を聞いて分かったり、深まったりするのが楽しい。
- ・自分と違う様々な意見が聞けたとき。
- ・自分の意見を仲間に納得してもらったとき。
- ・全体交流でまとめていくとき、そういうことだったのかと理解できたとき。
- ・分からなかったことが理解できたとき。
- ・初めての事実を知ったとき。
- ・課題について全力で考えるとき。
- ・資料を読み取るとき、考えるとき。
- ・自分の生まれていない頃の出来事を知れる。
- ・テレビやニュースで見る話の意味がわかるから。

- ・資料を見て考えるとき、難しい内容が読み取れないとき。
- ・資料の読み取り方がわからないとき。
- ・自分自身の理解力不足(既習学習内容)で難しい。

Q 班交流は好きですか。			
好き	やや好き	あまり好きではない	好きではない
15人	15人	3人	0人

- ・理解できていなかったら教え合いができる。
- ・仲間の考えを共有化できる。
- ・自分の意見と仲間の意見を比べることができる。
- ・自分と同じ意見や違う意見(視点の違い、資料の違い)が交流でき、考えが深まる。
- ・自分で読み取れなかったことがわかる。
- ・仲間に納得してもらったり、同じ意見があったりして自信を持って挙手ができる。
- ・全体交流の前に言葉をまとめることができる。
- ・いろいろな意見が聞ける。
- ・わからなかったことがわかるようになり、挙手発言ができる。

- ・話についていけず、理解できない。
- ・何て言えばいいかわからない。
- ・意見がまとまっていかず、理解できないときがある。

## 【研究内容1】との関わり

### 教材開発・課題設定・認識を深める発問の工夫

楽しいと感じる生徒の内容を見ると「初めての事実を知ったとき。」「自分の生まれていない頃のことが知れる。」「課題について全力で考える。」という意見が見られた。本時では、「山本五十六」を扱う。第二次世界大戦に大きく関わった人物ではあるものの、生徒たちにとって山本五十六はあまり知られていない人物である。初めて耳にする人物を扱うことで興味を持たせられると考える。また、山本五十六は海軍将校でありながら、アメリカとの戦争を反対し続けた人物であることを知らせる。生徒たちは、前時まで、軍部は、領土拡大を目指したり、軍部の考えに逆らえば命を狙われたりすることを学んでいる。その軍部の人間がなぜアメリカとの戦争に反対するのかという疑問を持たせていくことで「海軍将校であり、命を狙われながらも、なぜ山本五十六はアメリカとの戦争を避けようとしたのだろう。」という必然性のある課題を生み出していく。

また、認識を深めるために、国力差、軍力差、世界情勢の様子からの「勝てないから」で終わらせるのではなく、負ければ日本がどうなってしまうのか、国民の生活はどうなるのかというところまで考えさせていきたい。そして、日本の将来、今後の国民の生活、自分の家族のことを考えたうえでの反対であったことへと深めていきたい。

また、次時では、アメリカとの戦争に反対をしていたはずの山本五十六が、実は太平洋戦争のきっかけとなる真珠湾攻撃を立案し、指揮したことを知らせていく。ここで、生徒達の中に新たな「なぜ?」という課題意識が生まれてくるはずである。そして、真珠湾攻撃を立案し指揮した山本五十六の意図や気持ちを考えさせていく中で、日本が生き残るための国家体制や国民の生活の様子、考え方に対する認識を深めさせていきたい。

興味を持つ教材の開発、必然性のある課題設定、認識を深める発問や単元構想を工夫していくことで、生徒たちの追究意欲が生まれると共に、思考意識を持続させ、自らが学び続けていく姿がつけられると考える。

## 【研究内容2】との関わり

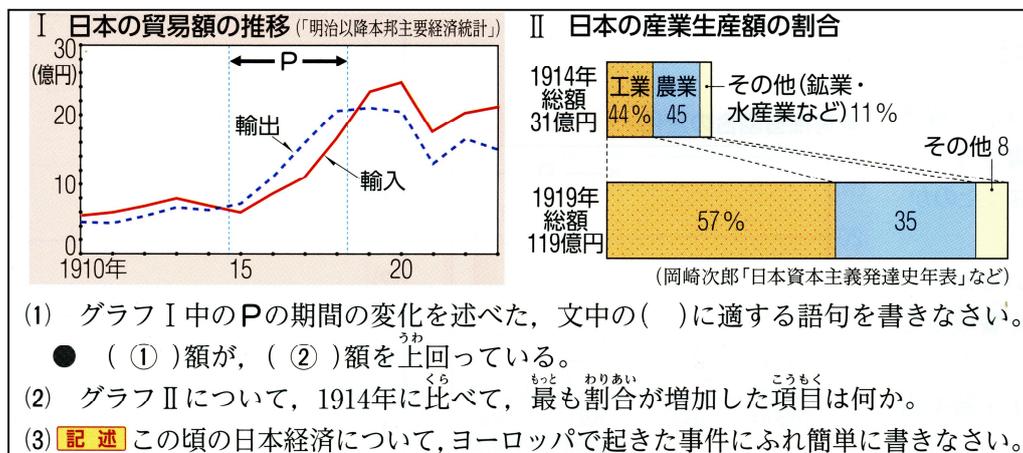
### 班交流の位置づけ

前ページの実態から分かるように、授業を全体の82%の生徒が楽しいと感じている。なぜ楽しいのかその内容をみると、個人で考え、分かったときの喜びばかりでなく、仲間と共に考え、仲間がいるからこそ、仲間の発表に耳を傾け、自分の考えに深まりを出せることに喜びを感じている生徒が多かった。

このように、授業が楽しいと答える理由には、班交流を原因に挙げる生徒が多かった。その班交流の意識調査では、班交流が好きだと感じている生徒は全体の91%にも及んだ。その理由として、「自分と同じ意見や違う意見(視点の違い、資料の違い)が交流でき、考えが深まる。」「理解できていなかったら教え合いができる。」「仲間に納得してもらったり、同じ意見があったりして自信を持って挙手ができる。」「わからなかったことがわかるようになり、挙手発言ができる。」などが見られ、考えを深めたり、不安を自信につなげたり、理解不足を補ったりするなど、班交流は有効な手立てであったと考え、本時でも位置づけることで、自分の考えを補強し、自信をつける場としたい。しかし、班交流をあまり好きではないと感じた生徒の意見の中に、「話についていけない。」「話がまとまらず、理解できないときがある。」といった意見があった。そこで、本時は、各班に用紙を用意する。班長または、まとめるのが上手な班員が、仲間の考えを聞く中で、キーワード的なものを端的にまとめ、その用紙をもとに、交流のまとめとして班員に伝える。用紙にまとめることで視覚的にも捉えやすく、考えの共有化を図り、確かな力を付けことができると考える。また、自分たちで課題解決していく力が身に付くと考え。

## (2)単元テストから見た生徒の実態をもとにした授業の工夫

「第一次世界大戦と日本」の単元テストの「資料の読み取り」の問題(1)の正答率は85%、(2)の正答率は90%であった。一方「資料と時代背景から考える記述」の問題(3)の正答率は、29%であった。



この結果を見ると、グラフの読み取りはおおむねできている。しかし、記述問題に対しては、29%と低く、思考・判断・表現力の弱さがうかがえる。不正解の内訳を見てみると、未回答が29%、グラフのもつ意味理解不足12%(貿易額の上昇から経済が好景気であることが理解できていない)、歴史背景の理解不足26%(Pの期間のヨーロッパの出来事と結びつかない)であった。このことから、資料から読み取る力はあるが、資料の持つ意味をつかんだり、資料と時代背景を結びつけたりすることの弱さ、文章で答えることへの苦手意識を持っている生徒が多いことが見える。

### 【研究内容2】との関わり

#### 資料の工夫

資料の読み取りに対して、文書資料を得意とする生徒、グラフの読み取りを得意とする生徒など様々である。単元テストの結果では、グラフからの事実の読み取りはおおむねできていることから、グラフ化した資料をつかう。グラフは視覚的に理解しやすいため、本時の課題解決においては、とらえやすいと考える。また、時代背景との結びつきに弱さが見られることから、年表や既習学習で本時と関係のある資料を教室内に掲示し、意識できるようにしていく。

### 【研究内容3】との関わり

#### まとめに生きる板書工夫

資料を結び付けて考えたり、時代背景とつなげて考えたりすることに弱さが見られることから、全体交流での生徒たちの意見を線で結びつけたり、年表や時代背景と線で結びつけたりしながら、視覚的にとらえやすくしていく。また、キーワード的なものについては、色を変え、まとめるときにその言葉を使っていくことを意識させていく。そうすることを繰り返していくことで資料、時代背景等を結びつけてまとめる力が付いていくと考える。

4 評価規準

(1)単元名 「第二次世界大戦と日本」 (全7時間)

(2)指導要領の位置

歴史的分野 内容(5)カ

経済的世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の結果までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを通して、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類に惨禍を及ぼしたことを理解させる。

(3)単元のねらい

第二次世界大戦、太平洋戦争の原因や要因について理解するとともに、日本における戦時体制下での国民の生活、戦争が世界全体に及ぼした惨禍を知る中で、国際協調、国際平和の大切さに気付くことができる。

(4)単元の評価規準

	ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	第二次世界大戦の我が国の歴史のあらましと世界の動きに対する関心を高め意欲的に追究し、国際協調・国際平和への実現に努めようとする自覚を持とうとしている。	我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きを通して、第二次世界大戦の我が国の歴史のあらましと大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	第二次世界大戦の我が国の歴史のあらましと世界の動きに関する文献、映像、統計・グラフなどの様々な資料を収集し、適切に選択して読み取ったり図表などにまとめたりしている。	第二次世界大戦の我が国の経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から戦争までの経過を世界の動きと関連させて理解し、その知識を身に付けている。
学習における具体的評価規準	戦争が人類全体に及ぼした惨禍を知り、国際協調、国際平和への実現に努めようとする自覚が持てる。 【第7時 ノート、発言】	ドイツは、占領政策の下、ユダヤ人迫害をおこし、多くの犠牲者を出し、多くの悲しみを生んだことを考察している。 【第2時 ノート、発言】  山本五十六が真珠湾攻撃を立案し指揮した理由について、アメリカとの交渉内容、「国民の生活」、「国家体制」、「軍人としての思い」の視点から考察している。 【第4時 ノート、発言】  国、家族、教育、軍の手段、圧力の視点を関わらせながら「命の重み」という視点から、特攻隊員の心情を考察している。 【第6時 ノート、発言】	山本五十六がアメリカとの戦争を避けようとした理由を「経済力」「軍事力」「世界情勢」「五十六の生き方」という視点で読み取り、五十六の思いとつなげることができている。 【第3時 ノートの記述】  戦時下で人々は国の統制の下に苦しい生活を送っていたことを資料をもとに調べることができている。 【第5時 ノートの記述】	植民地獲得競争が、全人類に多大な損害をもたらした戦争の要因となったことについて、その知識を身に付けている。 【第1時 ノートの記述】

6. 単元指導計画

時	ねらい	学習活動	評価規準	指導・援助 資料
1 第二次世界大戦	植民地獲得のためにヨーロッパでは第二次世界大戦が始まった経緯を理解することができる。	<p>1. 年表から、第二次世界大戦が始まったことを知り、本時の課題を設定する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第二次世界大戦はどのような原因で始まったのだろう。</p> <p>2. 課題について考え、交流する。</p> <p>1933. 1...ドイツは、ナチス政権を獲得 1933.10...国際連盟を脱退 1938. 3...ドイツがオーストラリア併合 チェコスロバキア領割譲 1939. 9...ドイツがポーランドに侵攻 ドイツの侵攻に対し、イギリスとフランスがドイツに宣戦 第二次世界大戦 1940. 6...イタリアが参戦 1941. 6...独ソ戦が始まる 1942. 1...ドイツ・イタリアが対米宣戦</p> <p>単元を貫く課題</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">再び世界を巻き込む戦争が始まった中、日本はどのような道を進み、人々の生活はどうなっていくのだろう。</p>	<p>&lt;エ - &gt; 植民地獲得競争が、全人類に多大な損害をもたらした戦争の要因となったことについて、その知識を身に付けている。</p> <p>&lt;場所&gt; 学習活動2</p> <p>&lt;方法&gt; ノートの記述 発言内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次世界大戦の経過</li> <li>・第二次世界大戦時の国際関係</li> <li>・第二次大戦中のヨーロッパと大戦の被害</li> </ul> <p>援助：ドイツやイタリアの海外侵略の様子を地図や年表からつかませる。</p>
<p>世界恐慌を乗り切るために、海外へ進出して勢力を拡大しようとしたドイツが、ヨーロッパで侵略を繰り返し、第二次世界大戦が始まった。イタリアやソ連も参戦し、戦争はヨーロッパ全土におよんでいった。日本はどのような道を進み、人々の生活はどうなっていくのだろう。</p>				
2 ドイツの占領政策（ユダヤ人迫害）	ユダヤの人々は、ドイツの占領政策のもと迫害を受け、多くのユダヤの人たちが犠牲となった事実から、ユダヤの人々の苦しみを考察することができている。	<p>1. ドイツの占領政策の中、ユダヤ人への迫害が行われた事実を知り、本時の課題を設定する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ユダヤの人々への迫害はどのようなもので、ユダヤの人々はどのような思いでいたのだろう。</p> <p>2. 課題について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何の罪もない人々への迫害。ひどすぎる。</li> <li>・自分たちと同じくらいの子供たちも迫害を受け、殺されている。</li> <li>・次は自分の番ではないかと恐怖におびえる日々を送っている。</li> <li>・強制的に働かせられ、そして殺されていく。人の命を何とも思っていない。</li> <li>・捕まれば、収容所に送られ、殺される。絶対につかまりたくない。</li> <li>・戦争だからと言ってこんなことあってはならない。</li> </ul> <p>3. ユダヤの人々を助けた杉原千畝を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツとの関係もあって悩みながら、自分の命も危ない中、ユダヤの人たちにビザを発行したのはすごい。戦争中でも、人の命を考えた杉原さんはすごい。</li> </ul> <p>4. 本時をまとめる。</p>	<p>&lt;イー - &gt; ドイツは、占領政策の下、ユダヤ人迫害をおこし、多くの犠牲者を出し、多くの悲しみを生んだことを考察している。</p> <p>&lt;場所&gt; 学習活動2</p> <p>&lt;方法&gt; ノートの記述 発言内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・略年表</li> <li>・アンネの日記</li> <li>・血で書かれた言葉</li> <li>・アウシュビッツ強制収容所</li> </ul> <p>援助：自分たちと同年代の子供たちまでもが迫害にあっている事実から思いを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・杉原千畝の資料</li> </ul>
<p>いくら戦争中であるからと言って、何の罪もないユダヤの人々に対する迫害はひどすぎる。ましてや自分たちと同じ中学生の子供たちに対しても容赦がなかった。ユダヤの人々はどんなにつらかっただろう。そんな中、杉原千畝は、日本の政策に反しながらも、命を大切にし、ユダヤの人たちにビザを発行したのはほんとに素晴らしいと思った。</p>				

時	ねらい	学習活動	評価規準	指導・援助 資料
3 対米戦の危機 山本五十六を通して  (本時)	経済力や軍事比較などの資料から、山本五十六がアメリカとの戦争を避けようとしたのは、当時の日本とアメリカには国力の差があることや当時の日本の情勢では、戦争をすることが困難であることを十分に把握していたからであるとともに、日本の将来、国民の将来、家族の将来を考えていたからであることが分かる。	<p>1. 日本の情勢を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東南アジアへ、資源確保のために進出 大東亜共栄圏を唱える。</li> <li>・アメリカとの対立強まる 戦争の危機</li> </ul> <p>2. アメリカとの戦争に反対していた海軍将校山本五十六の存在を知り、課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>海軍将校であり、命を狙われながらも、なぜ山本五十六はアメリカとの戦争を避けようとしているのだろう。</p> </div> <p>3. 課題について追究し、交流する。</p> <p>【経済力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカと日本の経済力が違いすぎる。</li> </ul> <p>【軍事力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカと日本の軍事力が違いすぎる。</li> </ul> <p>【世界情勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日中戦争の長期化によって、国家総動員法が出されるなど日本の戦線拡大はこれ以上不可能に近い。アメリカと戦う余裕がない。</li> </ul> <p>【生き方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軍縮会議での姿。日本の国益を真剣に考える。</li> </ul> <p>4. アメリカには勝てないから反対した理由から、山本五十六が何を一番考えていたのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・負けることで、日本の将来、国民の将来、家族の将来が苦しいものとなる。</li> </ul>	<p>&lt;ウ - &gt;</p> <p>山本五十六がアメリカとの戦争を避けようとした理由を「経済力」「軍事力」「世界情勢」「五十六の生き方」という視点で読み取り、五十六の思いとつなげることができている。</p> <p>&lt;場所&gt; 学習活動3</p> <p>&lt;方法&gt; ノートの記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・略年表</li> <li>・日本の南進の様子</li> <li>・大東亜共栄圏</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山本五十六の写真</li> <li>・山本五十六年表</li> <li>・五十六の意見書</li> <li>・五十六の言葉</li> <li>・日米経済力比較</li> <li>・日米軍事力比較</li> <li>・アメリカからの資源の輸入量</li> <li>・貯蓄石油量</li> </ul> <p>援助：それぞれの視点を結び付けて考えられるようにする。</p>
4 太平洋戦争の始まり 山本五十六を通して	山本五十六は、戦争が避けられない状況の中、国民の生活や日本の苦しい状況を変えるにはアメリカとの戦争しかないという考えの広まりに山本五十六も流され、五十六は日米対戦を決意し、やるからには勝たなくてはならないという思いで、日本を守るための策「真珠湾攻撃」を立案したことが分かる	<p>1. アメリカとの戦争に反対していた山本五十六が、太平洋戦争のきっかけとなった真珠湾攻撃を計画し、指揮していた事実を知り、課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>アメリカとの戦争に反対していた山本五十六が、なぜ、真珠湾攻撃を計画し、指揮したのだろう。</p> </div> <p>2. 課題について考え、交流する。</p> <p>【アメリカとの交渉失敗】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカとの交渉にかけていたが、アメリカの要求にはのめない。アメリカからの輸入ストップ</li> </ul> <p style="text-align: center;">もう戦争は避けられない</p> <p>【軍令部の作戦】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軍令部の作戦では長期戦になり、勝ち目はなし。</li> </ul> <p>【軍人としての責任】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軍人として日本を守る責任がある。自分がやるしかない。</li> </ul> <p>3. この時の日本の国家体制、や国民の生活の様子から戦争に向かう日本の理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが苦しい生活。苦しい状況を抜け出すには戦うしかないという考えが広まっていった。その流れに山本五十六も流されていった。</li> </ul> <p>この当時の国民はだれもが苦しい状況であった。さらにアメリカからの石油も輸入も止まり、日中戦争をしている日本にとってはさらに状況が悪くなってしまった。この苦しい状況を変えるにはアメリカとの戦争しかないという考えの広まりに山本五十六も流されていった。五十六は苦渋の選択を迫られる中、日米対戦を決意し、やるからには勝たなくてはならないという思いで、日本の情勢を考え、日本を守るための策「真珠湾攻撃」を立案した。いよいよ戦争が始まり、日本はどうなっていくのだろう。</p>	<p>&lt;イ - &gt;</p> <p>山本五十六が真珠湾攻撃を立案し指揮した理由について、アメリカとの交渉内容、「国民の生活」「国家体制」「軍人としての思い」の視点から考察している。</p> <p>&lt;場所&gt; 学習活動2・3</p> <p>&lt;方法&gt; ノートの記述 発言内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五十六の写真</li> <li>・真珠湾攻撃の写真</li> <li>・五十六の言葉</li> <li>・日米対戦における作戦案比較</li> </ul> <p>援助：この当時の国民の状況を考えられるようにする。</p>

時	ねらい	学習活動	評価規準	指導・援助 資料
5 戦時下の人々	長期化する戦時下のなかでの人々の生活の様子を資料をもとに調べ、アジアの植民地での人々の様子についても理解することができる。	<p>1. 戦時下の人々の写真を見せ目させ、本時の学習課題を設定する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">戦争の下で人々はどのようにくらしていたのだろう</p> <p>2. 教科書・資料集などから戦時下の人々のくらしについて調べる。          &lt;日本国内では&gt;          ・戦争は長期化し、政府は戦争の国民による協力体制を整えるために 1938 年 4 月国家総動員法を公布した。国民を軍需工場などに動員した。          ・農村では人手と肥料不足から収穫が減り、サトウ、マッチ、木炭、綿製品が配当制、米も配給制となった。          ・労働力が不足し、女性や学生の労働に頼らざるを得なくなった。学徒動員が始まると、高校生や中学生まで工場や農村で働かされた。          ・大都市の小学生は父母のもとを離れて、農村に集団で疎開をした。          &lt;植民地では&gt;          ・朝鮮半島では、日本語の使用や創氏改名を強制した。          ・朝鮮の人々も戦争に動員した。          ・植民地では、労働力不足を補うために外国人を強制的に鉱山や工場で働かせた。 在日朝鮮人・韓国人の差別へ</p> <p>3. 本時の学習について思いをまとめる。</p>	<p>&lt;ウー &gt;          戦時下で人々は国の統制下の下に苦しい生活を送っていたことを資料をもとに調べることができる。</p> <p>&lt;場所&gt;          学習活動 2</p> <p>&lt;方法&gt;          ノートの記述</p>	<p>当時の写真</p> <p>戦争を体験した身近な人の話</p> <p>資料集          「戦時下の国民生活」</p> <p>援助：配給物資の箱・赤紙や出征を見送る映像など当時の緊迫した状況を実際に生徒の目に触れさせたい。また、疎開や学徒動員など自分達と同じ世代が体験していたこと確認する。</p>
6 特攻隊	特別攻撃隊員は、国や家族を守るために命と引き換えにしてまで敵艦に突入し、若い多くの命が奪われていったことが分かる。	<p>1. 日本の戦い方の様子をつかみ、課題を設定する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">特攻隊員が自ら進んで命を捨てることができたのはなぜだろう。</p> <p>2. 課題について考え、交流する。          (勝利のための手段)          ・軍艦や戦闘機などの兵器は、空襲や原料の不足によって十分でない。また、燃料である石油もない。確実に敵に打撃を与えるための方法として考え出した方法だ。戦局を有利にするために命を捨てることができた。          (国・家族のため)          ・特攻隊員の遺書には、国のため、家族のためと書かれている。また、勇猛果敢に死んでいくことが立派だと考えている。だから命を捧げることができた。          (教育)          ・学校での教育は、軍事一色になっている。教科書では兵隊の活躍や国のために死んでいく教育が行われていた。教育によって国民がそのような考え方になっていったのではないか。</p> <p>3. 遺書から、出撃した特攻隊員の気持ちを考える。          ・恋人や家族への思いでいっぱいだ。国や家族のために死ぬことが名誉であると信じて、生きたいという思いを抑えていたのではないか。進んで命を捨てたのではない。</p> <p>4. 特攻の戦果から本時をまとめる。</p>	<p>&lt;イー &gt;          国、家族、教育、軍の手段、圧力の視点を関わらせながら「命の重み」という視点から、特攻隊員の心情を考察している。</p> <p>&lt;場所&gt;          学習活動 2・3</p> <p>&lt;方法&gt;          ノートの記述          発言内容</p>	<p>・特別攻撃隊（ビデオ）</p> <p>・三角兵舎          ・特攻隊を見送る人々          ・出撃の別れ</p> <p>・特攻隊員の遺書</p> <p>援助：様々な視点を関わらせながら、「命の重み」の視点を大切にして考えさせる。</p> <p>・特攻隊の戦果</p>
		<p>特攻の戦果がほとんどない、または、不明である。命をかけて行った特攻が不毛の戦果として記録されている。戦争とは人の命を軽くしてしまう。戦争を何とか起こさずに済ませることはできなかったのか。悲しみを生む戦争は絶対にしてはいけない。</p>		

時	ねらい	学習活動	評価規準	指導・援助 資料
7 戦争の 終結	戦争がアジア諸国と我が国に多大な損害を与えたこと理解し、国際協調・国際平和への実現に努めようとする自覚を持つことができる。	<p>1. 前時をふり返り、本時の学習課題を設定する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第二次世界大戦では、どれだけの被害があったのだろうか。</p> <p>2. 資料や統計から被害の状況を調べる。</p> <p>&lt;岐阜(身近な地域では)&gt; 空襲について  岐阜市 1945.7.9 被害家屋約2万戸 死者818人  大垣市 1945.3~7 被害家屋約5220戸 死者97人  各務原 1945.4~8 被害家屋約596戸 死者233人  多治見 1945.7 多治見駅・小泉駅銃撃 死者20人</p> <p>&lt;日本&gt;  ・1945年3月の東京大空襲では、100万人が焼け出された。  ・沖縄戦線では沖縄県の人口の4分の1にあたる12万人以上の犠牲者  ・原子爆弾で、広島で20万人以上、長崎で14万人以上の人々がなくなった。</p> <p>&lt;アジア&gt;  ・アジア各国の犠牲者は、約2000万人以上といわれている。</p> <p>&lt;世界&gt;国(軍人・市民)  ソ連(1300万・700万)、中国(350万・1000万)、ドイツ(350万・380万)、ポーランド(12万・530万)、フランス(25万・36万)、イギリスおよびイギリス連邦(45万・6万)、イタリア(33万・8万)、日本(170万・38万)、アメリカ(軍人40万)</p> <p>3. 戦争終結の流れを確認する  1945年8月14日 ポツダム宣</p> <p>4. 単元のまとめをする。</p> <p>世界恐慌から始まり、植民地獲得の競争に拍車がかかったことで再び戦争の被害が世界を襲った。アジアでは約2000万人の人々の尊い命がなくなった。この戦時下のなかで人々の幸せな生活すら保障されなかったことがとても悲しい。また、アジアの人々に対する謝罪の気持を持たなければならないと思う。日本をはじめ、これらの帝国主義にたくさんの国がなびき、損害を拡大させた。そして、世界中の人々に悲しみと不安をもたらした。今日の日本の役割は、世界の中で国際平和を唱え、実行していかなければならない。</p>	<p>&lt;アー&gt;  戦争が人類全体に及ぼした惨禍を知り、国際協調、国際平和の大切さに気付くことができる。</p> <p>&lt;場所&gt;  学習活動4</p> <p>&lt;方法&gt;  ノートの記述</p>	<p>戦争被害の統計資料</p> <p>援助：アジアの戦争被害について気づくようにする。  また、今までの学習を振り返り、戦争は多くの犠牲者を生むことを考え、国際協調・国際平和の大切さに気付けるようにする。</p>

7. 本時のねらい(3/7)

経済力や軍事比較などの資料から、山本五十六がアメリカとの戦争を避けようとしたのは、当時の日本とアメリカには国力の差があることや当時の日本の情勢では、戦争をすることが困難であることを十分に把握していたからであるとともに、日本の将来、国民の将来、家族の将来を考えていたからであることが分かる。

8. 本時の展開

学習活動	指導・援助 資料【評価規準】
<p>1. 日本の情勢を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東南アジアへ、資源確保のために進出 大東亜共栄圏を唱える。</li> <li>・アメリカとの対立強まる 戦争の危機</li> </ul> <p>2. アメリカとの戦争に反対していた海軍将校山本五十六の存在を知り、課題を設定する。</p>	<p>日本の南進の様子 大東亜共栄圏</p> <p>山本五十六の写真 【研究内容1】 侵略を進めている軍部の人間である山本五十六が、アメリカとの戦争に反対していたことを知らせることで、生徒に疑問をもたせ、課題につなげる。</p>
<p>(学習課題) 海軍将校であり、命をねらわれながらも、なぜ山本五十六はアメリカとの戦争を避けようとしたのだろう。</p>	
<p>3. 課題について考え、交流する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><u>アメリカと日本の経済力の格差</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカと日本の経済力が違いすぎる。鉄鋼石は1/70 石炭は1/10 石油は1/500である。</li> <li>・ほとんどがアメリカからの輸入。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><u>アメリカと日本の軍事力の格差</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカと日本の軍事力が違いすぎる。日本の戦争遂行能力が「4」アメリカが「40」で、日本はアメリカの1/10しかない。</li> </ul> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; width: 40%; margin: 0 auto;"> <p>アメリカには勝てない</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><u>日本をとりまく世界情勢</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日中戦争の長期化によって、国家総動員法が出されるなど日本の戦線拡大はこれ以上不可能に近い。アメリカと戦う余裕がない。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><u>山本五十六の生き方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軍縮会議での姿。日本の国益を真剣に考える。</li> <li>・「国大なり…」戦い方を考える。</li> <li>・海外生活 海外情勢に詳しい。</li> </ul> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個 班 全体交流</li> <li>山本五十六年表</li> <li>山本五十六の意見書</li> <li>五十六の言葉</li> <li>日米経済力比較</li> <li>日米軍事力比較</li> <li>アメリカからの資源の輸入量</li> <li>貯蓄石油量</li> <li>日本の戦線</li> </ul> <p>援助: それぞれの視点を結び付けて考えられるようにする。</p> <p>【研究内容2】 班交流を位置づけ、班の代表が班員の意見を用紙にまとめ、班交流の終わりにまとめて説明することで、班員の意見を整理して、一人一人が考えをもてるようにする。また、グラフ化した資料を使ったり、必要な資料を掲示したりする。</p> <p>【研究内容3】 板書する際には、発表者の意見を資料や時代背景と結びつけたり、キーワードが明らかになるように色をつけたりする。</p>
<p>4. アメリカには勝てないから反対した理由から、山本五十六が何を一番大切に考えていたのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・負けることで、日本の将来、国民の将来、家族の将来が苦しいものになってしまう。だからこそ勝つ可能性の少ないアメリカとの戦争は絶対に避けなければいけない。</li> </ul>	
<p>5. 本時の学習についてまとめる。</p> <p>山本五十六は、アメリカの国力の強大さを認識し、アメリカに勝つ可能性は極めて低いからアメリカとの戦争には反対し続けた。負ければ、日本の将来、国民の将来、家族の将来はつらいものになる。国を愛し、国民を愛し、家族を愛していたからこそ、勝ち目のないアメリカとの戦争を避けようとしたのだな。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】(資料活用)</p> <p>山本五十六がアメリカとの戦争を避けようとした理由を「経済力」「軍事力」「世界情勢」「五十六の生き方」という視点で読み取り、五十六の思いとつなげることができている。</p> <p>【ノートの記述、発言内容】</p> </div>